



東神総企第70号
平成19年4月25日

国土交通省道路局長 様

東神楽町長 関 崎 定



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について

平成19年4月2日付け国道企第114号で依頼のありましたこのことについて、別添のとおり回答いたします。

総務企画課主査 澤田

TEL 0166-83-2113 (直通)

FAX 0166-83-4180

E-mail hitoshi.sawada@town.

higashikagura.lg.jp

中期的な計画の作成にあたっての意見

意見者：北海道東神楽町長 関崎定治

【重点化を進める上で特に優先度の高い政策】

- ・北海道が担う食料の安定供給、観光・レクリエーション、休養・保養等の役割を十分に果たし、広大な北海道の均衡ある発展、生活や産業基盤の確立を図るため、規格の高い広域幹線道路網の整備が不可欠であります。
- ・道北圏域においては、圏域産業の振興、高度医療の需要、地域間交流の促進、広域観光等のネットワーク形成を図るため、高速交通網の確立とインターチェンジ機能を活用した流通基盤の整備が急務となっています。
- ・上川中南部においては、依然として高規格幹線道路網の空白地帯となっています。交流人口の拡大による地域活性化を図るとともに、道路を通じた高度医療等の公共サービスの供給や生活関連の幹線的物流の確保など、安全で安心できる生活に必要な環境整備のため、一定水準の交通サービスが重要であると考えます。

【効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと】

- ・個別事業の状況に応じて、供用目標（時期）を明示するとともに、その目標達成に向けてスケジュール管理を徹底すべきではないか。
- ・国や道、市町村道の行政枠にとらわれず、面的な整備手法の確立が必要ではないか。

【その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見】

北海道においては、すでに人口減少に動じつつあり、広域分散社会の中で地域のコミュニティが崩壊する恐れもあります。その地に暮らす人たちが、お金ではない満足感を得られるよう、『つながっている』安心をいかに提供できるかが重要に思います。

公共事業の見直しや事業評価など費用対効果を用いることが多くなっていますが、潜在的な利用価値、心の満足度、地域と地域がつながっているという安心感は数字に表しにくいものであると思います。